

## 看護師養成部会（第1回） 会議録

日 時：平成24年4月12日 午後13時00分開会

出席委員：上田委員、川崎委員、久保出委員、西委員、福田委員長（50音順）

### <会議の概要>

#### ○委嘱状の交付

○市長挨拶 市長の寺前でございます。加賀市医療提供体制推進委員会看護師養成部会の委員をお引き受け頂きまして、誠に有難うございます。ご案内のように、加賀市は二つの病院を統合して、平成27年度末統合新病院の建設に向けて、それぞれの部会で今、検討させて頂いております。中でも看護師養成部会は大変大事な部会でございます、医療関係の中でも特に看護師の不足という問題が大変大きな問題として課題があるわけございまして、これからの加賀市のあり方について各委員の皆様のご意見を賜りまして、ご報告頂ければというように思っております。大変短い時間になろうかと思いますが、宜しくお願い致します。

#### ○委員紹介

#### ○部会長、副部会長の選任

事務局 （部会長に福田委員、副部会長に上田委員を選任したい旨を諮ったところ、全会一致で承認された。）

#### ○議事

議題1 看護師養成部会の進め方について

事務局説明 資料1 加賀市医療提供体制の推進について（組織図）

資料2 統合新病院建設基本計画 策定スケジュール（案）

#### 質疑応答

福田部会長 只今のご説明について何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。  
この部会のスケジュールにつきまして、第4回、5回、6回というふうに打ってあるのですが、取りあえず3回ということなのでしょうか。

事務局 取りあえず3回までで、先ほど申し上げました看護師養成所の今、既に看護学校が市民病院横に併設をしておりますが、こちらの方を統合新病院の横に併設をするのか否かということの議論を中心に、この全3回でおまとめ頂き、あと市内の看護師の確保というような今後の運営の面につきましては、この4回目以降、まだスケジュール、日程等は決まっておりますが、以降の中心議論として進めて頂ければと考えております。

福田部会長 了解致しました。まず一番大事な、今、加賀市民病院の所に併設している看護学校を統合した病院の方に移すかどうかというようなこと、それから存続するかどうかということも含めまして、ご議論を頂きたいということが趣旨かと思われまます。

他に今のことにつきまして、何かご質問、ご意見等頂くことはございますでしょうか。

それでは、また後ほどご意見賜りたいと思います。

次、続きましては議題の2に移りまして、看護師養成所を取り巻く環境につきまして、事務局の方から再度説明願いたいと思います。

## 議題2 看護師養成所を取り巻く環境について

事務局説明 **資料3** 看護師養成所を取り巻く環境について

### 質疑応答

福田部会長 どうも有難うございました。只今、資料3につきまして詳しい説明を頂いたところですが、これについては何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。いかがでしょうか。

私から一つ質問があるのですが、3ページですけれども、このように当然少子化が進んで、日本国内でもいずれ2056年ごろには18歳人口が61万人になると。今の現在の高等専門学校も含めて、高等教育機関に入っている人数とほぼ同じものになってしまうということが言われておるので、このような減少になるのはやむを得ないことなのですけれども、その下の図を見ますと、需要とそれから供給とが27年度では、ほぼバランスを取っているということになっているところがありますけれども、これはどうしてなのでしょう。要するに、もう少し老人等が増えてまいりますと、当然その需要が増してくる一方だと思うのですが、それに供給がほとんど追い付いていくというのはどういうことになるのでしょうか。

事務局

こちらの資料に関しましては、先ほどご説明で申し上げました通り、これから10年20年後に関しては、先ほど先生のご指摘がありました通り、少子化が進み、18歳年齢が減ってくるという傾向にはございますが、こちらの下の需給バランスに関しましては、平成27年までということになりますので、このグラフを見ていただきますと、27年自体はそこまで少子、18歳年齢が減っていないということと、この需給バランスの差が縮まる大きな要因としましては、その前ページにございます、2ページ上段、看護師の養成所としては、今、看護大学を中心にこういういった学校施設が増えている状況でございますので、輩出する看護師の数が増えてくるということで、需給バランスは直近5年間、平成27年になりますので、4年間になりますが、ここに関してはこの輩出看護師数が増えることによって、この需要と供給の差が縮まってくるという傾向にございます。ただ、先生のご指摘がありました将来的な見通しで言いますと、この差はもしかすると、もっと乖離をする可能性はあるというところがこのグラフで意図したところでございます。

福田部会長

有難うございました。分かりやすい説明だったと思いますが、しかしながら、当然、これはまだ7対1看護が十分に行き届いてない部分がございます。それから、これは福井大学の医学部で始めたものですが、パートナーシップ・ナーシングシステムというようなことで、患者さん一人に対してベテランの看護師一人と、比較的若い看護師が一人ということで、ペアを組んでやるというシステムを作っております。これはやはり一つは、過重な労働のローディングを減らすということ、それからやっぱり安全性を高める。エラーを、ケアレスミスをなくすという意味と両方入っております、これをしいてから、やはり看護師の退職と離職という率が大きく減っております。わからないことを常に先輩の看護師に聞けるというようなこともございまして、こういうことを考えますと、やはりより手厚い看護ということがこれから求められてまいります。単純に人的なものでもって計算すると、こういうふうに、いわゆる需給バランスが大体ミートしてくるということになるかと思いますが、より高度の看護、ナーシングが、システムが求められてくるという現状にあっては、おそらくこれはもう少し値引いて見た方が良いのではないかと。要するに、もう少し看護師の供給が必要になってくるのではないかと。いうふうに私は考えるわけです。そういう意味におきますと、大体のアウトラインは、今、説明頂いたことだと思っておりますが、この説明について更にご質問、ご意見等ございますか。どうぞ自由に、せっかくの機会ですからご発言願いたいと思います。いかがでしょうか。

久保出先生、いかがですか。

久保出委員　今ほど先生も言われた通り、看護師が質の高い看護をしようと思うと、今の状況、多分この推定した需給率としては、アンバランスになるのではないかなというふうに思います。特にこのバランスをつくる時は、実は先ほど輩出という言葉を出されましたが、その輩出、何人卒業するかによって計算、試算されていますので、輩出される者と実際に看護職に就く者というのにはかなりの乖離があるように思いますので、このままの数字を信じていますと、やはり何年か経つと「こうではなかった」という結果になるのではないかと思いますので、この見通し通りというのは、少し受け入れ難いものだというふうに思います。

福田部会長　しかし、大体の27年度までの予測はこういうふうなことが成り立つだろうという予測ですけども、そういう色々なファクターを除いた、考慮に入れなかったらこういう部分になるということだろうと思います。

他にご意見はございませんでしょうか。上田先生、いかがですか。

上田委員　現在はないです。

福田部会長　西先生、いかがですか。

西委員　私も久保出先生と同じでやはり質の高い看護をしようと思うと、やはりこの数だけでは見られないというか、この需給・供給の過程とバランスが取れてくるのかもしれないのですが、もっともっと数が必要になってくるのではないかなと思っています。病院側としては、これから在宅医療とかということで、看護師がどんどん外の方に行ってしまうので、病院勤務の看護師も減ってくるように思います。さらに看護師の数を増やしていくことが大事なのかなと思います。

福田部会長　有難うございます。川崎先生、いかがですか。

川崎委員　平成22年度の離職率が先日出されまして、全体では大体11%を超えておりました。新人に関しては18%くらいありました。ということを見ると、私も学校訪問とかに行くのですが、どうしても加賀市というのはなかなか看護師が来て下さらないです。それで能登まで行くのですが、加賀市出身の方も結構いらっしゃるのですが「では、どこに就職なさっているのですか。」

と聞くと、やはり大きい町で、金沢周辺です。だから本当に今加賀市での看護師確保というのはとても苦勞しているような状況です。ここでは全国ですが、やっぱり地域としてどうするのかということまで見て頂かないといけないのかなと思っております。

福田部会長 大切な意見どうも有難うございました。

それともう一つ質問を受けて、これは私の勘違いかもしれませんが5ページです。平成22年度は、これは加賀看護学校の入学状況と出身地別と書いてあるところでは、人数が20人になっています。ところが上の方の入学状況を見ると、20人、これは21年度ですか。22年度は多い、だけど21年度は少なかった。これは何か原因があったのでしょうか。

久保出さん、いかがですか。

久保出委員 21年度に関しまして、人数が少なかったということには、やはり応募状況も少なかったことが一番大きな原因かと思えます。実は、私がそのとき学校にいなかったので、当時担当していた教務課長の通に意見を述べさせたいと思えます。

事務局 加賀看護学校の教務課長の通と申します。宜しくお願い致します。

この年度に関しては、本校が課程変更を行いまして、認可を受けたのが12月でした。それから募集が入りましたので、その募集人員が減少したことで、2次募集まで行いましてそれで20名を確保したという状況です。

福田部会長 課程変更をやられたということは、今まで准看のものを正看にするということですか。要するに、正看だけの3年制に変えたという移行期にあったということですね。わかりました。

私自身も病理として教壇に立たせて頂きまして、ひとかたならぬ愛着を持っておるものですから「何で。」というようなことでした。それ以後は、ほとんどこれは5ページの上のグラフにありますように、十分な人員がいるということですね。合格率もほぼ100%を維持しておられるということで、これは非常に素晴らしいことであるというふうに思います。これは恐らく、入って来られる学生諸君が優秀である、熱心であるということだけではなくて、教育される教育陣の方々が、熱心にやっておられるということの表れではないかというふうに思われます。

事務局の方から大体のデータをもらったのですけれども、他にも書いてある5ページ。市内に住んでいらっしゃる方と、市外に住んでいらっしゃる方

がございます。これ、市外の方は距離的にはどうなのでしょう。かなり遠いところに住んでおられる方が多いのでしょうか。

久保出委員 市外は22年度生に関しましては、富山県もおりましたし、能登出身の方もおります。それから、福井県もこちらはやっぱりいます。それから23年度に関しましては、北海道出身が1名おります。それから能登出身、福井県というようになります。

福田部会長 ということは、市外出身というのは大体下宿されている方が多いと。

事務局 そうです。県外と能登の方は下宿されています。

福田部会長 では、市内の方はほとんど自宅から通うと。

事務局 そうです。

福田部会長 わかりました。これは特に市外から来ると下宿代とか、あるいは食費とか、色々なものが当然掛かってくる。どこの高等教育機関でも一緒だと思うのですけども、こういうときに、視点として良い学生を集めるためには、色々な意味での奨学金のあり方ということが、非常に重要であろうというふうに思っています。これから少子化が進む面におきまして、積極的に良い人材を集めてやろうとしますと奨学金。市立ですから、県とか他のところの奨学金も少しあるようすけれども、市からの奨学金がどの程度、将来、充実出来るのかということが、かなり大きく事情を左右するのではないかと。はっきり言いまして、与える側です。これは返還する義務のない奨学金。ある一定の条件を付けて、例えば、給付された期間に等しいだけとか、あるいは5年間とか、一定の期限を区切って、加賀市内に勤務した場合には、返還義務を免除するというような奨学金を出してやった場合、当然、これは県外からも優秀な学生が集まる可能性があるし、市の中に定着するという条件にも恐らくフィットすると思います。両方の施策のために大きな力になるのではないかとこのように思えるので、今日はせっかく寺前市長がお見えですので、議論はどうかかわかりませんが、その辺のこともぜひ後のためにお考え頂けたらというふうに強くお願い申し上げたいと思います。他にこの件に関して、ご意見等頂くことは。はい、どうぞ、西先生。

西委員 追加でご説明させて頂きたいのですが、5ページの加賀看護学校の就職状

況の方で、うちの市民病院に就職した学生さんが5人、5人、8人と21年、22年、23年となっていますが、それ以外に他所の学校から来た人というのはほとんどありません。加賀看護学校からの卒業生が80から100%を占めるぐらいなのですが、20年度を見ますと、3人が加賀看護学校で、外からの人が1名。21年度も加賀看護学校から5人いますが、外から1名。22年度も5人ですとか、ほとんどが加賀看護学校からの学生なので、ぜひとも良い形で、病院に併設という形で存続して頂きたいというのが意見です。

福田部会長 先ほど、私も病理として教鞭を執った経験があるというふうに申し上げましたが、その頃から学生さんが非常に熱心であるということは、私も常に久保田先生に申し上げておったことがございますし、非常に感心致しました。講義を受けても非常に熱心に講義を受けますし、その結果が国家試験の合格率にも反映されているのだなというふうに、私は理解致しました。そういう意味において、極めて優秀な看護師を養成しておられたということに関しては、これまでの功績は極めて大きかったのではないかというふうに思われます。ぜひこれからも益々、この加賀看護学校が市の看護師養成の中核として発展していけるように、方策を私は考えていくのが、この部会の役割ではないかと理解しますが、皆さん方のご意見を少しお聞きしたいと思います。

上田委員、いかがでしょう。

上田委員 加賀看護学校に入学して、就職する場だと思います。それから学校を卒業して、その後に加賀市にずっと残ってもらいたいというのが非常に大切なことで、だから、学校だけあるいは病院だけの問題ではなくて、町の方もひとつ、そういう雰囲気作りというか、そのようなことは非常に大切なことだと思います。

福田部会長 もう少し詳しくお教え願えませんか。その町の雰囲気作りというのはどういうことを意味されるのか。

上田委員 例えば、加賀市と比べると金沢の方が魅力はあるとか、どうしても若い人は都会の方に行きます。病院なども、例えばの話ですが、金沢の病院、県立中央病院、そういうものを比べると、加賀市の病院は色々な症例にあえないとか、これは学生も医者に関しても同じだと思うので、そういう所をひとつ、ぜひ考えていただければと思っています。

福田部会長 有難うございました。今、おっしゃったことは極めて重要なことでして、私ども福井大学医学部も最初田舎にあったわけです。周りには何もないわけです。そうすると、6年間もこんな田舎で過ごしたのだから終わったら、せめて都会へ行きたいというふうな学生が結構多くございました。ところが色々その後に施設の整備を致したり、それから、卒後教育を十分にやらせるためのカリキュラムを充実させたり、あるいは指導体制を充実させたりすることによって、福井大学の卒業生が残ったり、あるいは外から逆にマッチングして入ってきたりというので、この新制度がしかれる、研修制度がしかれる前の状態までやっと思しました。

だから、これはそういう要件、悪条件と申しますか、少し不利な条件があったとしても、医療全体を工夫することによって、看護師としての生きがいとか、あるいは色々な意味での研修のやりがいとか、色々なものがあると思うので工夫を看護学校だけに限らず、先生がまさにおっしゃった、取り巻く環境、教育環境それから働く環境、これを良く整備していくことが大切ではないのかなというふうに思います。

こういう観点から、いかがでしょうか。川崎先生。

川崎委員 私も全くその通りだと思います。私は昔の国立山中病院の看護学校の卒業生で、3年ほど外に行っていたのですが、結婚という形でこちらへ戻って来ました。その中で今度は指導者という立場で学生と関わる機会を頂きました。とても看護の質が上がります。学生から刺激を受けるということと、私の同級生、後輩、先輩とか、みんな能登とか県外からいらして、そこへお嫁に。そのまま根付くということもあって、若い人が来るということは、とても町にとっては良い事なのかなと思いますし、看護師が残るとするのは、ただ、お金や待遇とかだけではなくて、いかに良い看護をしているかを学生に見せるかということで、ここの病院で働きたいという思いになることが多いので、その質を上げる意味では、お互いに学生もそこで働く看護職員もみんな刺激し合って、良い医療が提供出来るのではないかと思います。私は看護学校が必要だと思っております。3年制良いのか、大学が良いのかは別ですけども、確保という意味でなくても、加賀市のためには、ぜひ若い世代を引き寄せるものが要るかなと思っております。

福田部会長 有難うございました。西先生、いかがですか。

西委員 私も川崎さんと同様です。今、看護学校は併設していますけれども、お互いに学生も教員も看護師も刺激し合って、良い看護を提供出来るように頑張



っているつもりでおりますので、看護学校は凄く良いものだなと思っております。

福田部会長 看護学校を取り巻く、例えば、市民病院としても看護師を養成する。あるいは加賀看護学校を卒業した卒業生を受け入れる上で、こういうふうに変更していくべきではないか。あるいはこういう視点で、もう少し看護師を育てるべきではないかというような、視点から何かご意見ございますか。

西委員 今、看護学校の先生方とも年に2度ほど、どうしたらうちの病院に就職してくれる学生を増やすかということで話し合っております。やはり実習が一番重要なところでして、優しいだけではなく、厳しくということで、実際に学生に対する態度ではなくて、看護師同士とかの態度を結構見ているので、学生は。だから、良い看護を見せるということが一番大切なのかなと思っております。

福田部会長 加賀市民病院は7対1看護はやっておられますか。

西委員 やっています。

福田部会長 それと今言ったみたいに、パートナーシップ・ナーシングシステムというようなことをもし良ければ、福井大学医学部の方にご相談なさるなりして、そういう良いところがあったら、挙手して受けて頂くと、また新しく看護学生がそういうものに対して「良いな」というふうに思うかもしれないし、あるいはもっと良い方法があるかもしれない。

西委員 有難うございます。以前から福井大学の取り組みは聞いておりました。凄く良いことだなと思っておりますし、うちは一応7対1を取っていますが、ぎりぎりのところで、かなり超過勤務時間も多いです。二人で行えば電子カルテの入力とかも早く出来ますし、本当にリスクのことも考えると凄く良いことだなと思います。人数を確保出来たらの話になりますので、今のところは少し難しいかなとは思っています。

福田部会長 わかりました。

上田委員 せっかく福田先生がおられるのですから、福井大学の病院と加賀市内の病院と人材の交流とかをして、お互いに刺激し合うということは出来るかと思

います。

福田部会長 おっしゃる通り、近くでそういう交流が出来れば、色々な意味でお互いに刺激し合うということも出来ると思います。それから、参考になるかどうか分かりませんが、福井大学付属病院では、看護学校の2年生の学生をアルバイトとして雇った形で、手伝いをやらせておるということで、アルバイトをやりながら、色々な実習体験みたいなことが出来るという一石二鳥を狙ったやり方で、かなり学生には評判が良いみたいです。色々なそういうものに限らず工夫は出来ると思います。

西委員 うちも看護補助者として、アルバイトで学生の方に来て頂いています。

福田部会長 それは何人ぐらいですか。

西委員 今は二人だけです。

福田部会長 そういうのをもっとPRなさって、もう少したくさんやると、それが自然と実習につながるものです。

西委員 人事の者と話をしまして、もっと頑張っていきたいと思います。

福田部会長 今、色々意見を出して頂きましたけれども、要するに、環境ということ。先ほど市長の方からもありましたが、環境ということが幾つかの意味があると思うのです。学ぶ環境、働く環境、それから色々な意味で考慮する環境という意味があると思うので、上田先生の方から頂いた交流という面も看護学校として十分に考えて頂いて、正規のフィールドワークの中に入れて。確かに座学だけではなくて、一種のフィールドワーク的なもので、実体験を積み重ねていくということは、自分の職業意識を涵養すると。何のために看護師になるのか、看護師とはいったい何なのかという責任感と、学ぶための学ぶ意識と学ぶ目的ということをもう一回はっきり認識してもらって上でも非常に重要ではないかなというふうに思います。だから修学環境というのは、先ほど市長さんにもお願い致しましたが、奨学金の充実ということは、学生にとってはもう非常に重要なポイントであります。生活が安定しないと勉強どころではないわけですから、そういうところがあって、初めて安心して勉強ができる。また、そういう条件であれば、おそらく学生は真面目に捉えて、加賀市に残って加賀市の医療の為にやりたいと。また、残って加賀市の医療が

素晴らしければ、ずっと続けて加賀市に残って仕事をしたいと思う気持ちになっていくでしょうし、良い循環が生まれて来るのではないかというふうに思われます。

他に今までのところで、何かご意見を賜ることはございますでしょうか。

久保出委員 少し古い話を申し上げるようで申し訳ございませんが、加賀看護学校が設立された意義というのが、加賀市の看護の質の向上ということを目指して作りましょうということで、平成8年に開設されたと思います。その後実際に、加賀市民病院に入った職員と山中医療センターに入った職員、それから加賀市内に勤めた学生、卒業生ですね、全部併せると大体150ぐらいは超える状況になっております。卒業生300ないし400人近く出たかと思いますが、かなりたくさん卒業生を出して、地域の中で働かせて頂いていると思います。それともう一つは、一度県外あるいは市外へ出た学生も何人か戻ってきています。全部で20人程度戻って来て、加賀市民病院に再就職したり、加賀市内の開業医の先生の所へお世話になったりということもあります。学校側にそこで育てることによって、一時は出る者もいるかもしれませんが、やはりここが故郷になって戻って来ることも考えられるのではないかなと思います。

福田部会長 有難うございました。ここまでの事務局からの説明につきまして、何か他にご意見を賜ることはございますでしょうか。ご質問等はございますでしょうか。事務局の方で、何か説明が足りない、こういうところはもう少し補充して説明したいというようなことはございますか。

事務局 特にございません。

福田部会長 それでは全体を通して、他にご意見を賜ることはございますでしょうか。今まで色々なご意見をいただきました。これをお聞きになりまして、寺前市長はどのようにお考えになられましたか。少しお聞かせ願えたらと思います。

寺前市長 熱心な議論有難うございます。私の市長の立場としては、総合的な加賀市の魅力を特に若い方に、どういうふうに感じてもらえるかをやるのが一番大事なことだろうと思っております。そういう中でも具体的に奨学金の問題等もしっかり出てきましたので、また前向きに検討したいと思いますが、やはり加賀温泉駅を中心として、町全体がどのように活気を確保していくかとい

うことだというふうに思います。また今後とも熱心な議論をお願いしたいと思います。有難うございました。

福田部会長 どうも有難うございました。他に何か委員の方々からご意見を賜ることはございますか。

川崎委員 山中温泉医療センターは、公設民営になって今年が10年目です。国立山中病院だったときに附属看護学校があったのですが、閉校になりまして、その後の看護師の確保に本当に苦勞しています。最初的时候は本当に勧誘しなくても10人ぐらい残って下さって、次を担う人たちがどんどん実習との連携というか、うちは実習病院だったので残って頂いたということですが、看護学校がなくなったことで、本当に全国、去年は京都まで行ってきました。それは助産師の確保もあったのですが、遠くは、能登はもちろん、福井も去年行きましたし、富山のほうも確保のために行っております。やはり地元というのは凄く強みだと思います。こういうことを経験していますと、学校があった方がもちろん看護の質も良くなるし、町に若い人が集められるということもありますし、活性化につながるのではないかなと思っておりますので、ぜひ残していただきたいと思っております。

福田部会長 他にご意見はございますでしょうか。

部会長として意見を申し上げるのはどうかと思いますけども、やはり伝統のある看護学校でもありますし、加賀市に取りましても、重要な医療的な一翼を担う人間の育成と高等教育機関であるという意味において、もう論ずる必要もなく、存続すべきである。もしくは、発展させるべきであるというふうに私個人としても思うところではございます。それでは、一応大体の方向性として、看護学校は、色々な意味で市にとっての医療として一翼を担うために必要であるというような考え方は、委員ほとんど一致しておられるというふうに拝聴いたしました。この後、具体的なものは次回以降に議論させて頂くと致します。

事務局の方から何かございますでしょうか。

事務局連絡

- ・ 次回協議会は5月10日の予定。
- ・ 会議録は完成次第送付する。確認をお願いしたい。

以上